第2回タイの子どもたち支援及び交流ツアー報告書

社会福祉法人　三愛学園

児童養護施設　さんあい

１．実施に至る経緯

2016年6月にさんあいは創立40周年を迎えることができました。その節目を記念して、「40周年記念事業」を2015年度と2016年度の2年間に渡り実施いたしました。その中の1つがタイのチョンブリ県にある児童養護施設「豊かな人生の家」及びチャンタブリ県マカハム郡バンドンブレ小学校に通う貧困家庭の児童への支援です。このことは、さんあいの理念である聖書の教え、「受けるより与える方が幸いである。」ということをさんあいの子どもたちにも体験してほしいという願いも込められています。さんあいは多くの方々に支えられて40年を迎えました。皆様からのご支援は必要なくなったという状況ではありませんが、組織として社会に対しお返しする年齢に達したと考えています。そして子どもたちや職員に対し「与えること」の実践として、国内外の貧困に苦しむ子どもたち、特にタイの子どもたちの支援は継続してゆこうと願っています。この支援を通して、神様がさんあいと子どもたちを更に成長させてくれると信じています。

２．子どもたちの参加

本事業を実施するに当たり、子どもたちや職員の「与えること」の意識を高め積極的に参加してもらうよう促すことは必須事項です。「タイの子ども支援」では、プロジェクトチームを編成して2015年3月から協議を重ね、同年11月には、タイのカウンターパートと連携しながら交流ツアーを含めた支援内容を決めることができました。そして同年12月23日のクリスマス会の場で、さんあいの子どもたち全員に支援内容を共有し、特に中高生たちに交流ツアー実施と参加に興味があるかどうか聞くことができました。そして希望者には参加理由を書いてもらい、1人1人の面接も実施して、2016年3月に2名の高校生と1名の中学生が参加者として選ばれました。

子どもたちと職員が、与えることの大切さを学び具体的な行動として示してくれたのが、2016年4月に発生した熊本大震災でした。被災地の窮状は連日テレビ等で報道されていたこともあり職員と子どもたちは募金箱を回して義援金を集めました。そして早速被災地にある児童養護施設に送りました。また、5月29日の創立40周年記念祭には、タイの子どもたちと熊本の被災地のために各ユニットで出店してくれたお店の売り上げの半分を寄付してくれました。このような子どもたちと職員の参加によりタイの子どもたち支援と交流ツアーへの期待が園内に高まっていきました。

2018年の第２回交流ツアーへ参加する子どもは、当初2名が選ばれましたがその後の事情で1名になり、参加する職員とともに6月、7月、8月と3回のオリエンテーションの時を持ち、現地での交流の内容や必要な携行品等を話し合いました。そして第1回目と同様、支援地のバンドンプレ小学校では全校の生徒と併設された保育園児の給食に日本のカレーを作ること、児童養護施設「豊かな人生の家」では、当地の子どもたちと一緒に巻寿司を作って食べることにしました。また交流会として小学校では日本の浴衣とハッピを着て披露し、ビンゴ―ゲームで楽しむ。施設では、浴衣とハッピを試着してもらうことにしました。また交流会としてお互いの施設の様子や施設の見学もさせていただきました。

３．親権者と児童相談所の協力

交流ツアー実施を可能にしたのは、親権者の同意と児童相談所の了解でした。これらが得られなければ、子どもたちのパスポートを取得し海外に行くことは不可能です。今回の交流ツアーの趣旨に関係者の皆様が賛同して頂いたことを心より感謝いたします。

４．タイの子どもたちへの支援の概要

Ａ．児童養護施設「豊かな人生の家」

場所：　タイ、チョンブリ県　アングシーラ郡

名称：「豊かな人生の家」

定員：28名

職員数：９名

施設概要

タイ政府の運営する児童養護施設で受け入れが困難な親を失ったＨＩＶ／ＡＤＩＳ孤児救済のために、カナダ人宣教師であるカレン　サンチェス氏により、北米のクリスチャンの支援を受けて設立された。当初は地域の一軒家を借り上げて養育を行っていたが、孤立化問題等で運営が困難となり、現在１か所に4棟のホームを建設して、１つのホームに男女別７名の子どもたちを養育している。行政の認可との連携のもとで養育を行っているが財政的な支援は一切なく、海外からの支援金により運営されている。

さんあいからの支援と交流

さんあいでは、今までに「豊かな人生の家」の運営費の一部としてバザーの収益金を寄付いたしました。また、日本の玩具や文房具、スポーツ用具などを寄付いたしました。そのほかに交流会として、日本から巻きずしの材料をもって行き一緒に作って食べました。交流会では日本の浴衣やお祭りの時に着るハッピを着てもらって記念写真を撮りました。今年は、お金を寄付はしませんでした、前回と同じように巻きずしと交流会の時を持つことができました。特に今回は前回の時に参加してくれた子どもたちがいたので、上手に巻きずしを作ってくれました。

B. タイの貧困家庭の子どもたち（バンドンプレ小学校）

地域　チャンタブリ県、マカーム郡　バンドンプレ小学校（生徒数　約150名）

産業

８０％の人々が農業で生計を立てている。竜眼、ライチ、ドリアン、ランプータン等の果樹栽培が盛んである。

この地方の一人あたりの年間平均所得

18,000バーツ～19,000バーツ（約63.000円から66,500円程度）これは、タイでの一人当たりの最低必要年間所得30,000バーツ（約105,000円）よりも低い。

地域の課題

生徒たちの家は農家が多く現金収入が少ないことからお金を教育費に回せず９２％の子どもたちが勉強の途中で退学又は休学してしまう。このような状況から４５％の親たちがバンコクなどの大都市へ日雇いの仕事を求めて出稼ぎに出ている。

支援方法

農業

①水を効率よく管理する方法を指導する。②低コストでできる有機肥料の知識や生産指導を行い、化学肥料に頼ることなく農産物の収穫を増やせるようにする。　③現金収入増加のために養鶏グループ等を編成して、飼育方法やタマゴの管理方法を指導して現金収入の増進を図る。

教育

①子どもたちの職業訓練の1つとして、学校の中で給食用のキノコの栽培を行う。②子どもたちの職業訓練の1つとして、学校の中で給食用のはちみつの生産加工を行う。③普通学校での教育の機会が少なかった障害のある子どもが健常児と同じクラスで学べるように、県の機関と連携して教師へトレーニング等を行う。

保健

①郡の保健センターと連携して母子保健サービスを充実する。②他の団体と連携して、妊娠している女性や成人女性に対して家族計画や乳幼児にケアついての指導を行う。③高血圧や糖尿病の危険ある成人に対して、予防のための指導を行う。

さんあいからの支援と交流

この支援事業は、タイ国最大のＮＧＯである財団法人ワールド・ビジョン・タイランドが実施しています。さんあいでは、バンドンプレ小学校に通う6名の子どもたちを各ユニットで支援しながら活動を支えます。また、2016年の8月にさんあいの児童３名と職員２名が小学校に訪問し、サッカーボールやバレーボールなどのスポーツ用具と文房具などを寄付いたしました。そして給食に日本のカレーを作って全校の生徒と先生に食べてもらいました。そして交流会の時をもって日本の浴衣やお祭りの時に着るハッピを着てもらって記念写真を撮りました。小学校からは女の子による伝統的なタイダンスを披露してもらいました。今回の訪問も同じような支援と交流の時をもちました。

C.パタヤ孤児院（乳児院と児童養護施設一体型）

場所：タイ、パタヤ県　パタヤ市

名称：PATAYA Orphanage

定員：160名

職員数：70名

1974年米国人宣教師のレイモンド・ブレナン神父が米国人兵士とタイ人女性の間に生まれた赤ちゃんを引き取って育てとことをきっかけに、カトリック教会と米国人兵士グループの支援により設立された。本施設はタイで4施設のみに与えられている養子縁組機関として認定されており、入所児童の85%は主にヨーロッパの家庭へ養子として縁組される。また残った子どもたちの自立支援にも積極的で、大学へ希望する子どもたちも継続的に支援している。これらの活動を支えるために広報や募金活動も積極的に行っている。パタヤ市内にあるが、広い敷地を有し、国から認可された盲学校も併設され運営している。また職員寮や野菜畑や魚の養殖場もあり孤児院の運営の助けとしている。

さんあいからの支援と交流

さんあいでは、今回初めて訪問と支援をさせていただきました。施設の中を見学させていただいた後にバザーの収益金の一部を寄付させていただきました。

５．ツアーの目的とスケジュール

目的　　①タイの人々と交流し、日本に文化を伝え、タイの文化を学ぶ。

②日本や世界で弱い人のために働けるよう視野を広げる。

6参加者：SO（高1女子）、YO（男子職員）、HA（女子職員）、園長

曜日	スケジュール	備考
8/14 火	14時48分　岡部駅から乗車 18時00分　ザエディスターホテル成田チェックイン 千葉県成田東町168－1　TEL：0476 23 2300 19時00分　夕食 22時00分　就寝	①岡部駅より日暮里経由駅で京成成田駅へ （園長は、日暮里で合流） ②荷物は貴重品と一泊分の着替えのみ。スーツケースは8月10日頃に宅急便に空港に送っておく。
8/15 水	07時00分　起床・朝食 07時50分　ホテルの車で空港へ 08時20分　チェックイン 10時20分　マレーシア航空でクアラルンプールに出発 （飛行時間　約時間7時間25分 16時45分　クアラルンプール着 17時45分　マレーシア航空にてバンコク発　（飛行時間　約2時間10分） 18時55分　バンコク着　入国審査、両替、携帯シムカード購入後にタクシーでホテルへ 21時30分　ホテル着　チェックイン　夕食 23時00分　ミーティング　就寝	①機内持ち込みのバックには、貴重品、薬、カーデガン等を入れておく。 ②ホテルへは電車で行く。 ③ホテルは、（園長、青木） 浅野、幸花）の2部屋 ④夕食は機内食を食べているので軽い物。
8/16 木	07時00分　起床　朝食　散策 園長、ＷＶ職員と打合せ 08時00分　チェックアウト　チャンタブリへ出発　（途中昼食） 11時00分　パタヤ孤児院訪問 14時30分　バンドンプレ小学校着　挨拶　支援事業視察、明日の給食準備等 17時00分　ホテルチェックイン 18時00分　打ち合わせ　夕食 20時00分　ミーティング 22時00分　就寝	①チェックアウトまでゆっくりと過ごす。 ②荷物は全部持って行く。 ③ＷＶの職員がワゴン車で迎えに来る。 ④昼食の時間を取る。 ⑥ホテルの部屋割はバンコクと同じ
8/17 金	07時00分　起床　朝食 08時00分　チェックアウト・バンドンプレ小学校へ 09時30分　バンドンプレ小学校着　給食準備あいさつ後に昼食つくり開始（カレーライス160人分） 12時00分　保育園児　小学生と昼食会 13時30分　交流会、ビンゴゲーム、 サッカーボール、バレーボール、書籍の寄贈、 支援チャイルドへのお土産 17時00分　ホテルへ戻り 18時30分　夕食・散歩 22時00分　ミーティング　就寝	①荷物は、お土産と貴重品以外はホテルに置いてゆく。 ②学校に着いたら、まず恥ずかしがらずにしっかりと挨拶する。挨拶が終わったら、早速カレー作り。 ③交流会は、浴衣とハッピを披露する。 ④ビンゴ大会、お土産贈呈、記念撮影
8/18 土	06時00分　起床　朝食 07時00分　チェックアウト「豊かな人生の家」へ出発 途中にスーパーに寄って」カニカマボコと卵を購入 09時30分～10時00　「豊かな人生の家」着　あいさつ・昼食作り開始（巻き寿司50人分）	①チェックアウトの時間は遅れずに。 ②施設に着いたら、しっかり挨拶をする。また、子どもや職員と積極的に会話する。

	12時00分　昼食 13時30分　交流会・施設見学・意見交換、寄付の贈呈 15時30分　バンコクへ出発 17時30分　バンコク着　ホテルチェックイン　休憩 18時00分　園長　費用の支払清算など 19時00分　夕食・散歩・買い物 23時00分　ミーティング　就寝	③ご飯は炊いてもらっている予定。 ④巻き寿司つくり、施設の人に教えながら手伝ってもらう。 ⑤交流会は、浴衣とハッピを披露する。 ⑥お土産の贈呈と記念撮影。 ⑦土曜日はバンコク市内が渋滞する可能性があるので、なるべく早く出発する。 ⑧夕食は園長の友人のナカさん合流
8/19 日	08時00分　起床　朝食 09時30分　チェックアウト 10時00分　観光　買い物　昼食 14時00分　ホテル戻り シャワー　身支度 15時00分　チェックアウト　タクシーで空港へ 16時00分　空港着　チェックイン 18時40分　マレーシア航空でクアラルンプールへ 21時55分　クアラルンプール着 23時30分　マレーシア航空で成田へ	①一部屋を残してチェックアウト。荷物を1つの部屋へ移動。 ②ワットプラケオ（王宮）観光（サンダル、短パンは禁止） ③観光の後にホテルを戻り、順番にシャワーを浴びて着替える。 ④電車で空港へ
8/20 月	07時20分　羽田着　電車で岡部へ（園長は大宮でお別れ） 10時30分　岡部着　さんあい帰園、解散	①荷物は宅急便で送り、貴重品は持って帰る。

6. 旅の日誌

８月14日、15日

（成田出発からバンコク到着まで）

マレーシア航空の早朝便であったので、成田空港近くのホテルに宿泊した。予約内容が不明瞭だったので現地ホテルで確認した後にダブルルーム2室からシングルルーム4室に変更した。各自夜はよく眠れ、翌日の朝食バイキングはみんなでゆっくりとたくさん食べた。出発便は予定通りで、機種は世界で最大の旅客機のエアバス380であり、しかも2階席を確保できたのでよかった。機内では、それぞれが映画や機内食を楽しめた。クアラルンプールでの乗り継ぎもスムースに済み、ほぼ定刻でバンコクへ到着、入国審査、荷物の受けとりも順調だった。ただ携帯電話のSimカード購入は機種の関係で時間がかかり結局4名中2名の携帯のプリペイドSimを購入することができなかった。ホテルへの移動やチェックインも問題なく済み、22時ごろ軽食を取りにホテルの周辺のナイトマーケットを散策し、タイラーメンやマンゴを食べる。参加者全員タイ料理に違和感なくおいしく食べていた。

８月16日

「パタヤ孤児院」訪問と寄付、バンドンプレ小学校到着と準備

乳児院と聞いていたが、カトリック系の孤児院で乳児院や児童養護施設の機能だけでなく、自立支援や進学支援、ろう学校も運営している大規模な施設。その中で乳幼児の里親養子縁組も行っており、視察時にも一組の夫婦が交流に来ていた。縁組は世界中から希望が来るが、その中でもヨーロッパが多いとのこと。

乳児院の建物、職員の日中対応状況等は、配置職員数は少ないものの日本とさほど変わりはないと感じた。初めて会う外国人の私たちに対してもすぐに抱き着き離れようとしない幼児たちを見て、こうした交流に慣れていることもあるだろうが、本能としてアタッチメント対象を求めるのだろうかと感じさせられた。

建物の見学時に学習中の中高生たちと交流が持てた。将来の夢を聞くと、照れながらもみんな明確な夢・目標を述べ、その姿を見ると日本の中高生よりも将来への夢や希望を持っていると感じた。入所児童160人、職員70人とのことだが、敷地は広く、建物も大きい。この他、庭、畑、グランドもあるが、全体的な印象として整備が行き届いていて清潔感もある。私たちからの支援金に対し、すぐに事務室で手続きをし、翌日にはＨＰに載せるなどの動きを見ても、組織としてしっかりとシステム化できている。

私たちと同時刻に別の支援団体も来ており、この方々は主に「食」への支援を行っていて当日は子ども達と一緒に食堂にて昼食をとるとのことであった。こうした支援もインターネットを通じて世界中から集められている様子が伺えた。

パタヤ孤児院での滞在は約2時間で、その後昼食を挟んで約3時間かけてバンドンプレ小学校に到着した。そしてさんあいが支援している児童と対面した。また翌日調理や交流を行う場所、備品等を事前に確認できたことは良かった。建物、遊具等は思った以上にしっかりしており、整備も行き届いているように感じた。水に関しては雨水を貯めてろ過する大きな機材が数か所あり、ワールドビジョンからの支援によるものであった。ただ、水道があり水圧もよく不便さはなかった。

８月17日

（バンドンプレ小学校での1日）

朝9時頃到着するとすでにカレーの材料は切られており煮込むだけになっていた。材料の中には一昨年もあった「リンゴ」も入っていた。野菜のカットからこちらで行うように調整してあったが、こうした細かな調整の難しさは感じた。

カレー作りは煮込んでルーを入れるだけになったので、交流スケジュールも学校側の流れに合わせる形になり、①支援児童へのお土産贈呈、②保育園見学～幼児との交流、③交流会～ビンゴ大会、浴衣、パッピの試着、④バンドンプレ小学校女児による歓迎の踊り、⑤カレー完成～昼食会、という流れで進んだ。

支援児童へは個別に文房具や玩具をセットにした物をプレゼントした。緊張しながらも嬉しそうに中身を見る子どもの表情に喜びを感じた。

保育園では保育室に入らせていただき、お絵かき、文字の練習、塗り絵などの活動を見学し子ども達とも交流できた。室内は奇麗で、床はひんやりとした奇麗なタイル張りで決して環境は悪くない。

ビンゴ大会は想像以上に盛り上がった。ビンゴ自体を知っていたことも大きく、日本の子ども同様に当たるか当たらないかのワクワク感が楽しい様子であった。景品は文具、キャラクター玩具等を用意していたが、やはり日本アニメのキャラクターが人気ですぐに無くなった。大量に持って行ったポケモン人形にも興味津々だったので、次回の参考になった。先生たちも乗りが良く、場を盛り上げてくれたことに感謝。

日本の浴衣やハッピにも興味を示し、試着したい子もたくさんいた。限られた人数であったが日本の文化に触れられたことは彼らの良い経験になったと感じる。浴衣に関しては着てみたいという先生も多かった。

小学校側からは、小学4～6年生のくらいの女児が歓迎の踊りを披露。とても奇麗な衣装に身をくるみ、化粧をして華やかな踊りであった。

カレーに関して、前回は現地の調理スタッフの味付けで大量の砂糖を入れたので、今回はあえて日本の味付けで提供した。（中辛と甘口の混合）

昼食プレートにご飯、煮物、おかず、デザートが順に盛り付けられそこにカレーも入れた。子ども達には食パンも配られており、内容・量ともに日本の学校給食と同じかそれ以上の物であった、子ども達は各クラスのグループごとに座り、食前のお祈りをしてからテーブルごとに食べ始めた。特にこちら側の説明等の時間もなく食べ始めてしまった。カレー自体は正直子どもには人気がなかった。味付けもそうだが、ドロっとしたものがあまりないようで、スープカレー的な方がいい様子であった。

次回来るときにどんな日本食が食べたいか先生達の希望を聞くとカレーよりも「寿司」（巻き寿司）が良いとのこと。

私たちの昼食は別室で校長先生方や現地スタッフと共にとったため、食事ととりながらの子ども達との交流はなかった。

食事終了後も下校時間等の都合もあるのか、交流のセッティングは無く、敷地内を少し見学して終了となった。

８月18日

（豊かな人生の家での1日）

ＨＩＶに感染している子ども達の施設ということで前回の訪問時の様子では活発ではないと聞いていたが、巻き寿司作りもその後の交流もとても活発で笑顔もあふれていた。

到着後、すぐに１つのホームのキッチンで準備を始める。施設のスタッフもいたがミーティング等もあったようで、皆を集めての自己紹介等もなく、時間も限られていたのでこちらで積極的に動きながら準備を開始。足りない調味料や調理器具は傍で見ていた高齢児にお願いし持ってきてもらうなど、この時点で施設の子ども達も積極的に関わっていた。

下ごしらえを終えた後、巻き寿司の手順を見せ、その後私たちが横や後ろについて子ども達と一緒に巻き寿司を作った。巻くのが楽しいようで、低学年や幼児も嬉しそうに体験した。

チャンタブリの子ども達同様、お土産はキャラクターやアニメ関係が人気であった。

浴衣も人気で、女の子たちみんなが着たがり着付けの方は大忙しであった。華やかな浴衣を着ると嬉しそうな笑顔を見せていた。ここでも子ども以上にスタッフの先生方が興味津々で、浴衣を着て外に出て自撮りをしている姿が見られた。

施設の副代表より入所児童の現状、つい先日スラム街の路上で保護した女の子のこと、ＨＩＶに対し偏見があるのは事実で地域の学校に通っているが感染については公表していないこと、学力もあり支援を得て医者を目指している子がいることなどを伺った。

子ども達の生活棟も見学。物は少ないが整理は行き届いている。

ＨＩＶ感染という重荷を背負いながらも将来を考え、前向きに生きている子ども達の姿が印象的であった。

教会や海外からの支援も充実しているのか、敷地も広く、建物や公用車も立派で多くの支援と結びついている様子が伺えた。

８月19日、20日

（バンコク半日観光と帰国便）

ゆっくりと朝食をとり、チェックアウトを済ませ荷物を一つの部屋へ移動させてから10時前には観光へ向う。バンコクで一番の観光地で世界遺産でもあるワットプラケオと王宮へ電車と船を乗り継いで行く。当初は隣にあるワットポーも見学予定であったが、ワットプラケオの来場者が前回とは比べものにならないくらい多く見学に時間がかかってしまったために１か所だけ見学してホテル近くへ戻り、昼食を食べて各自シャワーを浴び15時30分頃に空港に向かう。

チェックイン、出国手続きを無事に済ませて定刻にはクアラルンプールに向けて出発できた。クアラルンプール空港では、成田行の乗継便がトラブルで23時30分発が03時00分に遅延したため、夕食のバウチャーを貰って空港内レストランで夕食をとり過ごす。その後03時00分の便に搭乗し11時00分に無事に成田空港へ到着し帰国できた。

７．旅の感想と後日談

（参加者の声）

初めての海外の旅は驚くことばかり。それでも心癒されたのは子ども達の笑顔。言葉は通じなくても、合わせた手とコップンカー（ありがとう）の挨拶で心を通わせることができたと感じました。貴重な体験をさせて頂き感謝の思いで一杯です。（浅野副主任）

一番の印象は世界中どこの国でも子ども達の笑顔は最高の宝物であるということです。貧困地域、孤児院、施設の子ども達は苦しいながらに将来の夢を持ち表情は生き生きしていました。職務としてこうした経験ができることに感謝し、目の前の子ども達の将来を応援していきたいと思います。　　（青木主任）

私はタイに行って、日本との文化の違いが印象に残りました。日本ではお祭りの時にしかない屋台が一年中あるのにも驚きました。建物も日本と違ってカラフルで見ていて楽しかったです。（高1・0.S）

海外へ行くのですからお金は掛かります。しかしさんあいの考えは明確です。その１つは、海外での貴重な経験を通して、参加した児童が将来日本や世界の人のために働く夢を持ったり、職員のモティベーションが上がり、さらに質のよい仕事ができることを期待しているからです。2つ目は、さんあいは地域に根差した児童養護施設ですが、同時に国内や海外の社会的養護の必要な児童のためにできることをして行く施設であり続けるということです。それは終戦後の混乱の中で約12万人の孤児たちが生死をさまよっていた時に、海外（特に北米）からの支援によって支えられ、日本の児童養護の礎となった歴史的事実を受け止め、少しでも恩返しをしたいと考えるからです。　（高瀬園長）

（報告会の開催）

参加者は、帰国早々施設親善ソフトボール大会への参加、2学期の準備等で旅の余韻に浸る暇もない状況でした。そこで2学期が始まり少し落ち着いた9月30日に「タイ交流ツアー報告会」を開きました。参加した児童たちは真剣にタイの子どもたちの様子や食べ物、学校の様子、タイ児童養護施設の報告を聞いていました。

報告会ではツアーで撮った写真と動画を見せながらにみんなにタイの様子を説明しました。

―おわり―

神を愛し、人を愛し、土を愛す

児童養護施設は、保護者のいない児童、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設とする。（児童福祉法　第41条）

児童養護施設　さんあい

369－0212　埼玉県深谷市櫛挽15-2

電話 048-585-0605

Fax 048-585-0562

[Web サイト]http://www.san-ai-jidouyougo.net/index.html